

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : 困難を抱えるこども若者の孤立解消と育成
- 資金分配団体 : 一般財団法人 ちくご川コミュニティ財団
- 実行団体 : 一般社団法人 みんなの家みんな

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
1-1. 居場所となる 仮みんなを整備する	1-1. ①施工完了の確認 ②関係者による感想による評価 ③使用実績	1-1. ① トイレ:浄化槽設置、水洗化 ② お風呂:簡易的な扉設置、床の改修 ③廊下:床板の張替え ④ 居間:南側の壁に明り取りの窓、薪ストーブの設置。 ⑤ 集い場:腐食した合板の壁などを取り除き、落ち着いたあ る和の空間にする。	1-1. 2021年 7月ごろ	1-1. ① 改修完了 ② 改修完了 ③ 改修完了 ④ 改修完了 ⑤ 改修完了 一部、老朽化などにより追加補修が必要であったが、12月仮みんなの改修が完了した。	2

<p>1-2. 居場所となる みんなをつくる</p>	<p>1-2. ① 設計に必要な情報の 取りまとめ ② 設計計画と進捗管理 シート</p>	<p>1-2. 旧民家を解体し、土地の排水対 策を行ったうえで整地、建築を 行う。</p>	<p>1-2 . 2024/3/ 1</p>	<p>1-2 旧民家の解体完了。 現在、整地するための準備が整って いる。 ① 設計士および大工との会議によ り、建築に向けた準備を行っている。 ② 設計チームにより、設計内容の まとめ、会議記録および工程管 理表が作成されており、資料と して保存されている。</p>	<p>2</p>
<p>1-3. みんな(仮みん か)が子ども若者の 居場所として活用 されている。</p>	<p>1-3. ①滞在実績として、期間 と人数の把握</p>	<p>1-3. 1名以上の滞在実績がある</p>	<p>1-3 . 2023/3/ 1</p>	<p>1-3 現時点では、まだ滞在実績はない が、2022年7月にオンラインにて面 談した若者が、同年9月下旬に、み んかに体験滞在予定。関係者との面 談の状況は別紙 2-7。 なお、別紙 2-7 のとおり、みんなに は多くの人を訪れるようになって いる。みんなを知ってもらう人が増 えることで、みんなの存在を口コミ してくれる人も増えているものと 考えている。</p>	<p>2</p>

<p>1-4. みんな対象者や関係者からの相談などを受けている。</p>	<p>1-4. ① 相談実績</p>	<p>1-4. 相談を受けた実績が確認できるよう、件数や内容について記録が残されている。</p>	<p>1-4. ～随時</p>	<p>1-4 ① 相談実績 2 件 別紙 2-3 広報誌としてみんな通信を年 4 回発行していること、HP の開設、2022 年 7 月には、みんな公式 LINE を立上げ、若者が直接アクセスできる機会を構築した。そだちの樹さんからのアドバイスにより、まずは、LINE よりも Twitter で、気軽に情報に触れられるようにするとよいとのことで、開設する。開設後 2 週間で 90 のフォロワー、ダイレクトメッセージ 4 名とつながる。</p>	<p>3</p>
<p>1-5. みんなに滞在する若者が自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、得意なことや自分自身の存在価値に気づく環境ができていく。</p>	<p>1-5. ① みんなに滞在した後、または巣立つ際にみんなでの生活や自身を振り返るアンケートを作る。 ② 滞在者と関わる人から意見を記録できるシートを作成。滞在者アンケート 滞在者の客観的評価（記述式）</p>	<p>1-5. 短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、自分自身を見つめなおす時間を持つことができ、今後の生活に希望を見出していることが確認できる。連絡先などを把握し、その後のフォローができる関係が構築できている。将来の目標設定をして巣立っていく。</p>	<p>1-5. ～随時</p>	<p>1-5 別紙「滞在者アンケート」を作成し、みんなに滞在したことで心境の変化やみんなでの生活について評価できるようにしている。</p>	<p>3</p>

<p>2-1.みんなに滞在する若者と地域行事への参加、地域の人的課題による活動（道路愛護、美化活動、空き地の維持、景観保全活動など）や農作業支援などに積極的に取り組んでいる。</p>	<p>① 地域行事への参加実績報告 ② 地域貢献事業実績報告 ③ 地区住民からの意見、反応</p>	<p>① 参加記録シートを作成 ② 活動内容の記録シートを作成 ③ 地区住民へのヒアリングシートを作成</p> <p>短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、地域住民、外部からの訪問者などと関わりながら、地区の人に感謝される行動を自発的にできるようになる。</p>	<p>～ 2023/10</p>	<p>① 別紙 3-1 から 3-6 にて、地域活動に対する参加状況をまとめている。 地域行事・活動・高齢者支援・農地活用など、延べ 150 回以上に参加している。 滞在者がいれば、いつでも一緒に参加できるように環境を整えている。</p> <p>② 毎月の活動記録、関係人口の人数などを記録し、関係者と共有・保管している。</p> <p>③ 地域住民に対する「近隣地域住民ヒアリングシート」を作成し、中間評価の時点で調査を実施、みんなに対する意見を収集・まとめを行っている。</p>	<p>3</p>
---	---	--	----------------------	---	----------

<p>3-1. みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくり、仕事づくりを行っている。</p>	<p>① 適格者の発掘と育成 ② 法人化検討会議の開催 ③ 収益事業の進捗</p>	<p>① 事業主体者 5 名、および中心的な協力者 10 名体制とする ② 協議内容をまとめた会議記録づくり、または法人化。 ③ 財務状態を支える収益事業が運営されている</p>	<p>～ 2023/10</p>	<p>① 協力者にとどまっている。施設で働くというイメージではなく、一緒に暮らすという事業の特殊性から適格者との出会いは、なかなか難しいことを感じている。理想的には、滞在する対象者の中から、将来のみんなを運営する人を育てることだとあたりめて感じている。Twitter 上にいる施設出身者には、自身が支援者になりたいと思っている若者も多く、今後のつながりの中で、みんなでの共同の可能性も模索していきたい。 ② 2022 年 4 月、一般社団法人として設立完了。定期面談と合わせて、法人化の検討を行い、無事に法人化。 ③ 継続して、収益事業の立ち上げと、運営を支える環境づくりを行っている。</p>	<p>3</p>
--	---	---	----------------------	---	----------

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 b 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
訪問による面談などが制限されてしまったが、郵送やオンラインにて対応している。

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
筑後川流域新聞、東峰テレビ
- 2.広報制作物等
みんか通信 No.1～4（年4回発行）
- 3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
外部	みんなの環境整備について	早川 悟司	子供の家 施設長
外部	みんなの環境整備について	永岡 鉄平	フェアスタートサポート 代表理事
外部	みんなの環境整備について	黒川 洋司	良心塾
外部	地域での活動について	鳥巢 良彦	高木地区みらい会議 会長
外部	地域での活動について	宮崎 久遠	宮園地区住民

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1. 若者がみんなの家みんなに滞在することで、自分の生き方をみつけるきっかけとなり、身体的、精神的、社会的に良好な状態になることを支援できている。	①滞在者アンケート（記述式） ②滞在者の客観的評価（記述式）	短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、自分自身を見つめなおし、将来の目標設定ができるようになっていく。	2024年3月まで	みんな通信、HP などを使って、関係者への情報提供を行っているが、具体的な対象者との接点が難しい。すでに、夜回りされている方との同行で、勉強させていただくことも検討している。新しい試みとして、LINE や Twitter アカウントを作成し、みんなに関する情報を発信し始めた。Twitter 上には、対象者となる子が、なやんだり、している状況を素直に投稿していたり、彼らが支援者になろうとしているなど、みんなに関われる素養のある若者がいるよう

			<p>に感じている。物理的な環境などの問題もあるが、Twitter上での出会いは、今までにない直接的な関わりになると感じている。</p> <p>また、評価関係者との意見交換においても、既存の支援者との関係性を大事にし、信頼関係の上での紹介につなげることが望ましいとの意見をいただく。他にはない取り組みであることから、他への波及効果が生まれるよう、焦らず、じっくりと取り組んでほしいと期待されている。</p> <p>2022年9月22日より、東京から22歳の女性が一カ月の体験滞在で、みんかへ来訪。滞在アンケート結果から、みんかに来てよかった、他の人へ紹介したい、という住環境としては評価を得た一方、自身の東京での生活や精神的な面の違いにおいて、ギャップを感じていた。経済的な課題を解決したいという思いから、お金を稼げる環境として東京に戻ることになった。しかし、この滞在期間中に、みんかや私たちのことを知るといふ人間関係は構築できたと感じており、彼女にとって、「ただいま」と言える場所に近づけたのではないかと思っている。</p> <p>なお、Twitterを通して、10月30日から1週間の体験滞在希望の連絡があり、受け入れの予定。</p>
--	--	--	---

<p>2. みんなに滞在する若者が、高木地区の人と関わることで、生活支援・行事などの支援を通して、地域社会へ貢献している。</p>	<p>地区住民への地域貢献についてのヒアリング・アンケート</p>	<p>ヒアリングシートやアンケートにて地域への貢献が示されている</p>	<p>現時点において滞在した若者がいないこともあり、直接的な評価はできないが、近隣住民へのアンケートにより、少なからず、若者がくることへの期待感を示していることを確認した。</p> <p>最も多い意見は、どんな子が来るかわからないので、何とも言えないという回答だったが、否定する意見はなかった。しかし、みんなに滞在する子が、問題を起こさないかどうかという不安を挙げる人もいることは確かで、この点については管理責任および地域住民とのコミュニケーションを大切にすることでカバーしていきたいと考える。</p>
<p>3. みんなの家みんなの管理運営体制を強化し、外部団体との連携ができ、持続可能な事業運営を行うことができている。</p>	<p>① 事業に参加するメンバーの増員 ② 法人化</p>	<p>① みんな事業に関わる人との交流および対話が行われている。また、みんなの対象となる若者との関わりにおいて、みんなの担い手となりうる若者が見出される。</p> <p>② 法人化に向けた検討結果報告書作成または法人化の実現。</p>	<p>現在、みんなの実質的な運営は、師岡夫婦で行っている。</p> <p>みんなの事業に関わる協力者は、 作業系：ボランティア 広報系：関連支援団体、知人などがおり、事業に共感してくれている。</p> <p>みんな事業がスタートしたことで、高木・黒川地区の関係人口は3,500人を超えており、地区内外の人との交流が発生していることは示されている。</p> <p>その中で、なにかあるときに、手伝ってくれる人はいるが、常に意識の中に入れながら、能動的に行動してくれる人はなかなかおらず、運営スタッフを確保するには、財源や予算を見直し、パートタイム的な仕事として関わる人を入れることも検討する必要性も感じている。</p> <p>2022年4月一般社団法人化が完了。</p> <p>組織の基盤づくりを行っていく必要がある。</p>



③ アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある<input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である<input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい <p>と自己評価する</p>	<p>みんな事業の環境整備という観点から、全体的には計画どおりに進められている。</p> <p>マンパワーの不足において、新たな協力者ができており、今後、徐々に改善されるものとする。</p> <p>組織の内部環境づくりにおいて、遅れている部分について、専門家の協力を得ることになっており、改善していく見通しである。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容は計画通りに実施されているか	外部評価者4名に対し、事業進捗説明後、意見をいただき、その内容および、進捗状況については問題ないとの意見をいただく。 また、近隣住民アンケートを実施し、10名の方から、本事業に対する地域としての意見を収集したところ、否定する声はなく、現段階でわからないが約6割、歓迎される意見が4割であった。	全体的には、計画通りに進められていること。独自性のある事業として適切な評価を得られた。 コロナ・円安などの社会的環境により、資材などが高騰しており、自己資金で整備する本みんかの設計を見直し、コストを抑える工夫などを余儀なくされている。 若者を受け入れる住まいとして、みんかのコンセプトを大事にし、必要な部分に注力した設計となるよう調整している。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業の進捗において、課題の検索、必要な実施事業の見直しが行われているか	資金配分団体との定例会時に、課題の共有を行っており、対象となる若者との接点づくり、組織基盤強化について協議している。	対象者との接点づくりに関しては、外部評価者4名および若者支援に関わっているお二人に意見を伺い、具体的な助言を得ており、早速行動を開始した。LINE や Twitter など、SNS の活用をすることにより、想像以上の成果を得ている。 ただし、専門家、関係者からのアドバイスでは、みんかの事業の特性上、一人ひとりと向き合うことの方が大事なので、焦らず、本当に必要な若者との出会いを大切にしたいと思うので、私自身も、Twitter など、気楽に交流ができる方法で、丁寧な接点づくりを行っていきたいと思っている。組織基盤づくりは、

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>事業継続に向けた運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業への人員体制、意思決定、過程の整理など）に問題はないか。</p>	<p>必要な作業においては、協力者がいるが、主たる運営協力者が配偶者のみとなっており、人員確保が必要。 法人化後の内部環境づくりを行っていく必要がある。</p>	<p>運営に関する人不足について、継続して賛同者を探すこと、人件費を確保して、パートスタッフを雇うことも検討する。 また、法人化後の環境整備においては、プロボノ活動などを視野に入れ整備していく。</p>
-------------------------	---	--	---

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・ 施設退所者の若者アフターケアを行っている支援団体から、若者との接点づくりに関して、LINE の前に、Twitter を活用した方が良いとの助言をいただき、早速開始したところ、退所者と直接関わることができ、みんなに興味を持ち、直接メッセージをやり取りした若者が一人いる。
- ・ みんな通信を毎回お送りし、みんなの現状をお伝えしている東京の児童養護施設 施設長より、体験滞在の希望者を紹介いただいた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・ みんなという拠点ができたことで、過疎化・高齢化がすすむ地域を訪れる人が増え、子育て家族4名の移住につながった。その他、みんなに宿泊してみることから、移住の相談が増えており、2022年9月現在、3世帯の相談を受けている。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>困難を抱えた若者との関りは、一人ひとりと丁寧に向き合う時間が必要であり、一つ一つの出会いを大事にしていく必要がある。外部関係者からの意見も、事業の特性から一つの実績が次へつながるとの意見があり、焦らず、丁寧に、関わった若者の感想や評価が次の若者につながっていくと感じている。本年（2022年）9月に滞在してくれた若者がきっかけとなり、後半の事業に大きく影響を与えてくれるものとする。</p> <p>また、関係者からのアドバイスにより、TwitterなどのSNSを活用し始めたことで、施設退所者との直接的な接点が得られており、見守り、相談を受ける機会が今後増えていくものを感じている。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

対象者となる若者との接点づくり。
 組織体制づくり。
 経済的基盤である事業の育成。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



子ども達の自然体験活動の受け入れ①



子ども達の自然体験活動の受け入れ②



本みんか建設に向けた整備の様子